

職場に戻ったらすぐチェック！

- ✓ 緊急通報の手順が決まっていますか？（自分の判断で 119 番してよい、管理者が通報する、警備員室にまず電話する、など）
- ✓ 職場の電話で 119 を押したら消防につながりますか？（外線 0 発信は？）
- ✓ 電話器の前には、職場の住所、電話番号、目標物などが掲示されていますか？
- ✓ 救急車は施設のどこに到着しますか？ そしてどういう経路で現場に侵入しますか？（エレベーターにストレッチャーが乗る？）
- ✓ AED の設置場所を職員全員が知っていますか？
- ✓ AED といっしょに、ハサミ、タオル、（カミソリ）、手袋、人工呼吸用感染防護具は入っていますか？
- ✓ AED のバッテリー、パッドの有効期限は切れていませんか？

心肺蘇生技術を活かすために ～救命をシステムとして考える

今日、講習会で学んだのは、技術（テクニカル・スキル）です。

しかし、職場で効果的な救命を行うには、個人の技術に加えて、救急対応を職場のシステムの問題として考え、備えておく必要があります。

職員全員が同じ技術を身につけ、共通認識を持っていることが第一歩。

そして、職員の役割分担・連携を想定しておくこと、さらに、地域の救急サービス（消防を含め）と上手に連携する準備をしておくこと。

救命の連鎖を思い出してください。

多くの場合、もっとも効果のある救命処置は、人を集めること、そして 119 番通報することです。

無駄のない迅速な 119 番通報、そして施設に到着した救急車から救急隊員が最短ルートで現場に入れる工夫を、ぜひシミュレーションしてみてください。

救命講習は防災訓練と同じです。

次のステップとして、職場の中で、窒息や心停止対応シミュレーション訓練を行ってみることを提案します。うまく行った点、うまく行かなかった点。

なぜ？ その振り返りから、スタッフの連携が生まれ、システムの改善点が見えてくるはずですよ。